

2025 はじめのいっぽ

難聴児の指導 I

東京都北区立赤羽小学校

練馬区立旭丘小学校

世田谷区立砧小学校

時間講師 伊澤 浩仁



難聴の種類

(1) 伝音難聴

- ・ 外耳や中耳に原因があり、音が伝わりにくい難聴。
- ・ 医学的治療により治ることが多い。
- ・ 耳栓をした状態の聞こえ方に似ている。



- ・ 補聴器を装用することにより聞こえが改善する。
- ・ 小耳症や外耳道閉鎖症が原因で、伝音難聴になる場合がある。骨導補聴器や軟骨伝導補聴器を使用。



(2) 感音難聴

- ・ 内耳、神経、脳になんらかの原因があり、音を感じとるのが難しい難聴。
- ・ 音が歪んでいる状態で、チューニングが少しずれているラジオの音声を低音量で聞くような聞こえ方。



- ・補聴器を装用し、音を大きくしても、音の歪みは解消されない。
- ・音は聞こえても何が話されているのかは聞き取りにくい。



▶ YouTube 感音難聴の聞こえ方

(3) 一側性難聴（片耳難聴）

- ・左右のうち片側の耳だけが極端に聞こえにくくなっている難聴。
- ・聞こえにくい方から話しかけると分からない。



- ・騒がしい場面では聞こえにくい。
- ・どこから声ができるのか分からない。
- ・学校生活において学業や行動面での学級適応に問題が生じる可能性がある。



▶ YouTube 片耳難聴の間こえにくさ

(4) 聴覚情報処理障害 (APD/Auditory Processing Disorder)

聞き取り困難症

(LiD/Listening Difficulties)

- ・聴力には異常がないけれど、
言葉がよく聞き取れない状態。



- ・騒音下で聞き取れなくなる。
- ・複数人の会話が聞き取れない。
- ・話すスピードが速いと理解できなくなる。
- ・電話や無線が聞き取れない。
- ・横や後ろから話されると分からない。



◎聞き取り困難症 (LiD) 聴覚情報 処理障害 (APD) 診断基準 (案)

1. 純音聴力検査が両側、4 文法
(500Hz、1000Hz、2000Hz、
4000Hzの平均) にて25dB未満。
かつ特定の周波数で25dB以上の
閾値上昇がない。



2. 語音明瞭度が正常範囲（静寂下の語音明瞭度が85%以上）
 3. 聞き取り困難の自覚症状を認める（小淵らの聞こえにくさ質問紙109点以下、または、小川らの聞こえの困難さ検出チェックリスト6点）
- 以上、1-3を全て満たすもの



- ▶ LiD/APDの方は、こんな風に聞こえている（動画）
- ▶ 「当事者ニーズに基づいた聴覚情報処理障害診断と支援の手引きの開発」公式ホームページより

（5）機能性難聴

- ・器質的な難聴を認めない非器質性難聴。
- ・心因性難聴と詐聴

①詐聴

- ・ある耳で聞こえの程度を故意に良くまたは悪くみせかける行為。



②心因性難聴

- ・耳には原因となる病気がなく心が原因で起こる難聴。
- ・聴力検査では、かなり大きな音でも聞こえないため、難聴を疑われる。会話では、よく聞こえている。



- ・女子に多く、6～12歳に多く見られる。
- ・心の葛藤、悩みを持った子ども達のSOS。
- ・先生方や保護者、スクールカウンセラーなどが連携し、問題解決に努める。



難聴を伴う困難さの理解

①「聞こえにくい」という困難さ

- ・声が小さいと聞こえにくい。
- ・距離が離れると聞こえにくい。
- ・騒音や反響が大きいと聞こえにくい。
- ・聞こえにくい耳の側の声は聞きにくい。



難聴を伴う困難さの理解

②「分かりにくい」という困難さ

- ・早口の話は理解しにくい。
- ・口の動きが見えないと理解しにくい。
- ・相手が複数だと理解しにくい。
- ・相手が子どもだと理解しにくい。



難聴を伴う困難さの理解

- ・初めて聞くことばは理解しにくい。
- ・話題がつかめないと理解しにくい。
- ・集中力が切れると理解しにくい。
- ・不安な場面では理解しにくい。



難聴を伴う困難さの理解

③「つながりにくい」という困難さ

- ・子ども同士の会話場面は難しい。
- ・聞こえにくさが理解されにくい。
- ・本人も聞こえにくさは理解しにくい。



難聴を伴う困難さの理解

- ・会話することが不安になる。
- ・会話体験が不足しやすい。
- ・疎外感を感じる場合もある。



リスニング・エフォート

- ・聴覚情報を理解する際、妨害要因を乗り越えるために、意図的に心的リソースを配分すること。
- ・集中しなければ話の内容を理解することが難しい。脳への様々な負荷がかかる。



リスニング・エフォート

- ・コミュニケーションや学習面への影響が懸念される。
- ・リスニング・エフォートの概念を知り、疲れやすいことに対してほんの少し気に掛けたり、声掛けをしたりするだけでも、学校での過ごし方が変わる。



聞こえを補うのに大事なこと

- ①適切な補聴器を選択・調整すること
- ②ノイズを低減するなど聞きやすい音環境を整えること
- ③人とかかわりコミュニケーションする意欲があること



よりよく聞くために難聴者に求められる基本

- ①自分の難聴を自覚していること
- ②自分に聞きたい音があり、話したい相手がいること
- ③どこから音がするのか、誰が話しているのか、音源や話者に近づくことができること



よりよく聞くために難聴者に求められる基本

- ④音や話し手が近づいてくれるのを待つだけでなく、自ら音源や話者に近づくことができること
- ⑤よりよい聞こえを得るために工夫できること



難聴者に分かりやすい話し方

- ①細かく区切りすぎず、句読点を目安に間を置いて
- ②早口にならず、ゆっくりと自然な抑揚をつけて
- ③語尾を曖昧にせず、文末まではっきりと



難聴者に分かりやすい話し方

- ④自分の顔を逆光にせず、相手の顔を見て
- ⑤複数の人が同時に話さず、一人ずつ
- ⑥雑音や反響の少ない場所で



▶ YouTube 難聴理解促進の歌

通級による指導の目的と指導内容

◎目的：

在籍学級で自分の力を発揮し、
生き生きと自分を表現する子どもを育てる。

◎指導内容：

自立活動



通級による指導の目的と指導内容

◎自立活動の内容6区分

1. 健康の保持
2. 心理的な安定
3. 人間関係の形成
4. 環境の把握
5. 身体の動き
6. コミュニケーション



通級による指導の目的と指導内容

- ◎難聴の子どもへの指導内容例
- 聴覚管理、難聴理解、自己理解
 - 情緒の安定
 - 自己肯定感
 - 他者の意図や気持ちの理解、
 - 集団参加



通級による指導の目的と指導内容

- ◎難聴の子どもへの指導内容例
- 補聴器や人工内耳の自己管理
 - 補聴器や人工内耳を活用した聞き取り、環境調整
 - 構音指導
 - ことばの理解力・表現力



通級による指導の目的と指導内容

- ◎難聴の子どもへの指導内容例
- 他者との意思疎通や状況に応じたコミュニケーション



指導内容を考える際の配慮事項

- ・子どもに合った難易度（自信をもって取り組める程度～少し手応えがある程度）を設定する。
- ・「自分で考えてわかった」と思えるような主体的に取り組める手がかりを工夫する。

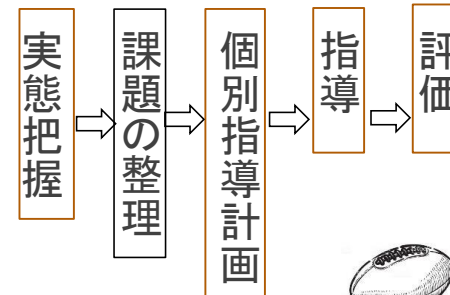


指導内容を考える際の配慮事項

- ・ 子どもの興味・関心に合った指導内容や活動を取り入れ、学習意欲を持たせる。
- ・ 聞く、話す、読む、書くの言語活動がバランスよく組み込まれている。



実際の指導の手順



実態把握

- ・ 生育歴（調査票、聞き取り）
難聴の発見、相談歴、補聴歴、聴力の変動
言語発達、社会性
- ・ きこえの様子（聴力検査、会話）
気導聴力検査、補聴時のきこえの検査やきこえ方
- ・ ことばの様子（会話、検査、行動観察）
ことばの理解力、表現力（語彙、構文）
発音、発話の明瞭さ、LCSA、PVT-R



実態把握

- ・ コミュニケーションの様子
（会話、行動観察）
コミュニケーション意欲、マナー、状況の理解
集団の中での様子
- ・ 発達検査（WISC-IV、K・ABC-II 他）
生活年齢と比べた発達の差、アンバランス
得意・不得意、言語発達と全体的な発達の関連性



実態把握

- ・ 在籍学級での様子
(授業参観、担任からの情報)
授業中のきこえの様子、指示理解、授業への参加
友達との関わり、学習状況
- ・ 保護者の思い、子どもの思い
(保護者と面談、雑談)
希望や目標、不安や心配、将来像、要望



個別指導計画

- 氏名、性別、在籍校、学年・組、担当者、指導回数。入級年月日
- 主徴
- 児童の実態
- 年間指導目標
- 前期（後期）の指導
 - ・ねらい
 - ・内容
 - ・手立て
- 在籍学級で必要な配慮



評価

- 年2回、指導報告書を作成
 - ・ 児童名、在籍学校名・学年組・担任名
通級校校長名、指導担当者名
 - ・ 児童のきこえ、配慮事項
 - ・ ねらい
 - ・ 指導の経過と今後の課題
- 3学期末に読書力診断検査及び絵画語彙
発達検査を実施
- 3学期末及び必要に応じてケース会議



きこえの指導

- ◎難聴のある子どもの指導・支援は、聴覚
への対応が基盤
- 聴力を大切に管理すること
- 補聴器、人工内耳を使いこなすようにすること
- 耳を使う便利さや楽しさを体験すること等
相互に関わり合いながら指導・支援を組み立て
る
- ※聴覚は、他の様々な要素と結びつけら
れて、総合的な形で学習される



聴覚保障

- ◎音情報をきちんと脳に届けられる状態を作った上で、子どもが聴くスキル・話すスキル、そして認知する力を伸ばしていけるよう指導する。
ことばで学ぶ力をつける。



聴覚保障

◎語音弁別能

- ・ 80～100% : 聴覚のみで会話を容易に理解可能。
- ・ 60～80% : 普通の会話はほとんど理解可能だが、不慣れな話題では注意の集中が必要。



聴覚保障

- ・ 40～60% : 日常会話で内容を正確に理解できないことがしばしばある。
- ・ 20～40% : 日常会話において読話や筆談の併用が必要。
- ・ 0～20% : 聴覚はコミュニケーションの補助手段。



聴力・補聴機器の管理

◎純音聴力検査

◎補聴器、人工内耳装用閾値検査

(20dB～25dBの閾値を目指す)

◎補聴器、人工内耳装用時の 語音の聞き取り検査

(57S表、65～70dBで提示)

◎騒音下の語音の聞き取り検査



聴力・補聴機器の管理

- ・ 水泳指導時の補聴器の管理
- ・ 水泳指導時の人工内耳の管理・活用
- ・ 宿泊学習時の補聴器、人工内耳の管理（事前指導）



ワイヤレス補聴システムの活用

- ・ 在籍学級でロジャーやミニマイクを活用する。
- ・ 事前に家庭と在籍校で話し合っていたき、合意形成をする。
- ・ きこえとことばの教室で効果的な使い方について学習。
- ・ 先生へのお願いの仕方やタイミングを考え、練習する。



ことばの指導

◎ことばの指導において中心は会話。

話すことにより、子どもは自分の経験や気持ち、考えを言語化する。

- ・ 相手に伝えながら、自分にも伝える。
- ・ 言語表現が適切か、相手はどんな表現を使うかを、相互交渉の中で学習する。
- ・ 会話の中で、語彙、文法、言い回しなどが、具体的に提示される。



ことばの指導

◎一次的ことばと二次的ことば（岡本夏木）

コミュニケーションの形態	一次的ことば (生活言語)	二次的ことば (学習言語)
状況	具体的現実場面	現実を離れた場面
成立の文脈	ことばプラス状況文脈	ことばの文脈
対象	少数の親しい特定者	不特定の一般者
展開	会話式の相互交渉	一方的自己設計
媒体	話しことば	話しことば、書きことば



ことばの指導

◎言語指導は、

- 一次のことばを十分に育てる。
- 一次のことばを二次のことばにつなぐ。
- 一次のことばと二次のことばを共に育てていく。

※一次のことばと二次のことばをつなぐ要は先生。

●九歳の壁：より早くから子どもを二次のことばの使用者にしたいとあつてゐることに力をつぎ、一次のことばの醸成がもつ発達の意味が無視されていることが背景にある。

ことばの指導

◎学習言語の獲得のために

- 生活言語を十分に獲得する。
- 学習言語を見聞きした経験を増やす。
- 考える力を伸ばす。

具体的には…

- ・「これ」「あれ」で済ませない。
- ・日本語を厳密に豊かに使う
- ・概念を広げる ・冗談やだじゃれ
- ・突っ込みの会話の充実 等

ことばの指導

◎言葉の言葉化

- ・言葉を言葉で説明するという指導法。
- ・大人の言葉の言葉化が語彙力、説明力の向上に寄与する。
- ・言葉を学ぶ力を育てる。



ことばの指導

◎言葉の種まき

- ・知らなそうな言葉でも投げかけておく。
- ・言葉の偶発学習の保障にもなる。



ことばの指導

◎偶発学習の保障

- ・ 小耳に挟むような情報。
- ・ ほとんどの語彙獲得は、言語と知識に偶発的に触れることによりなされる。
- ・ 偶発学習の意図的指導化。



ことばの指導

◎意味ネットワークを密にする

- ・ 太った言葉
一つの言葉からたくさんのイメージが浮かぶ状態。
- ・ やせた言葉では、思考が広がらない。
- ・ 言葉が太るようにコミュニケーションする。



ことばの指導

言語指導のための活動例

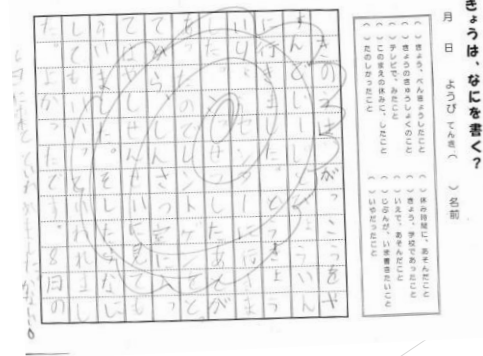
- ・ 絵日記、日記、作文、新聞作り、キャラクター図鑑作り
- ・ 絵本の読み聞かせ
- ・ 発音の練習
- ・ しりとり、なぞなぞ、クイズ、クロスワード
- ・ カルタ
- ・ 文章の読解、文章の要約
- ・ 慣用句、ことわざ ・ 自由遊び 等



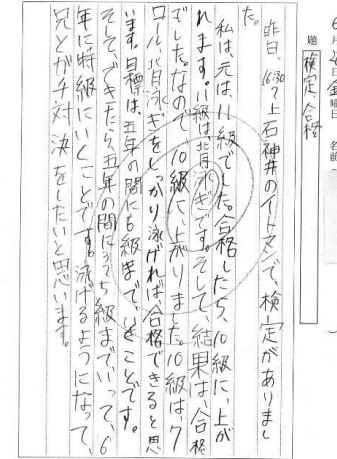
絵日記 (1年生)



日記 (3年生)



日記 (5年生)



マンガ作文 (5年生)



キャラクター 図鑑 (2年生)



②強の流れ

グループ指導

活動例

3. スピーチタイム「自己紹介」（20分）

①一人ずつ前に出て、自己紹介をする。

話すこと…学校、学年、名前、好きな時間、自分のきこえ方

②私は誰でしょうクイズ

4. 先生遊び（10分）

①友達同士でチームになり、相談し合える遊び

休憩

グループ指導

活動例

5. きこえの時間「きこえのしくみを知ろう」（15分）

・音がどうやって聞こえるようになるのか、補聴器や自分自身のきこえ方（伝音性、感音性。その他）、補聴器や人工内耳の役割など自分自身のきこえ方を客観的に知る。

6. ゲームリーダー遊び（10分）

グループ指導

活動例

7. 振り返り（10分）

①感想の記入

②感想の発表

8. 終わりのことば（1分）

◎交流週間（6/24～7/12）

目的：直接的・間接的な交流を通して、通級児童のよりよいコミュニケーションを図る。

グループ指導

活動例

方法：

・直接的な交流はプレイ室、間接的な交流はことば・きこえの教室の廊下を中心にブースを設ける。
・各個別指導の時間の一部を使い、指導内容や児童の実態に応じて参加する。

内容：風船バレー、100gを探せ

難聴児バディ・システム

- ・ 2 人の人が一緒に活動する中でお互いをケア、サポートする仕組み。
- ・ 子ども同士の関りを体験しやすいように子ども二人だけの場面を用意する。
- ・ 子ども達同士の共感的な関係が形成される。

難聴児バディ・システム

○フェーズ 0

- ・ 個別支援による準備と支援
「会話支援」を行い、仲間作りの基礎となる会話の素地を培う。

○フェーズ 1

- ・ 空間を共有
同じ場所で過ごせる。バディへの安心感。

難聴児バディ・システム

○フェーズ 2

- ・ 行動を共有
バディへの指向性。遊びや会話を同調。楽しい気分。

○フェーズ 3

- ・ 目的を共有
遊びの目的を共有。バディを援助。役割分担。

難聴児バディ・システム

○フェーズ 4

- ・ ストーリーを共有
役割が一貫する。遊び方を相談。遊びが発展、展開していく。

○フェーズ 5

- ・ プランニングを共有
次回の活動内容を相談。子どもの発案での活動を計画する。役割分担を相談する。

セルフ・アドボカシー

◎セルフ・アドボカシー

- ・ 自分にとって必要な支援を求め、交渉する行為。
- ・ 障害のある本人が将来にわたって合理的配慮を受けるための基礎となるもの。



セルフ・アドボカシー

◎セルフ・アドボカシーに必要な要素

①知識

<自分に関する知識>

- ・ 自己の障害についての認識
- ・ 自分に適した支援方法についての知識
- ・ 支援があることによって活かせる自分の長所



セルフ・アドボカシー

<社会に関する知識>

- ・ 基本的人権や障害者総合支援法や障害者差別解消法などの法律・制度に関する知識
- ・ 行政窓口・病院・補聴器販売店、障害者団体等自分を支援してくれる組織や制度



セルフ・アドボカシー

②技能

- ・ 文章の流れを組み立てて、説明・説得するための談話能力
- ・ 相手の立場を考えながら必要な主張を行うアサーション能力
- ・ 途中で失敗しても交渉を継続的に進めるためのコミュニケーション修復力



セルフ・アドボカシー

②態度

- ・「セルフアドボカシー」として自ら解決すべき課題であると捉える態度
- ・意欲をもって諸課題に関わるという態度

※指導しなければセルフアドボカシーの力は育たない



セルフ・アドボカシーチェックリスト

- ☐音を聞いて、大きすぎる・小さすぎる・ちょうどいいと言える。
- ☐補聴器がハウリングしたら自分でイヤモードをしっかりとつけ直せる。
- ☐人工内耳のコイルが外れたら自分でつけ直せる。
- ☐補聴器が耳から外れそうになったら自分でつけ直せる。



セルフ・アドボカシーチェックリスト

- ☐自分の聞こえにくいことや補聴機器のこと（機種名、ボリューム、感度設定、着ける理由、ワイヤレス・システム、パーツ名など）を人に伝えられる。
- ☐騒音の激しい教室や反響の大きい体育館など、聞こえにくい環境に気付くことができる。



セルフ・アドボカシーチェックリスト

- ☐補聴機器の管理が少しずつできるようになる。電池をチェックしたり、使わない時は注意深く外したり、不意に外れた時には補聴器や人工内耳のコイルを装用できる。
- ☐朝、自分で補聴器や人工内耳を装用し、スイッチを入れることができる。



セルフ・アドボカシーチェックリスト

- ☐ 騒音を消したり話し手に近づくなど、自分で聞こえやすくなるような方策を知っている。
- ☐ 何がどのように自分の聞こえにくさの原因になるか、どうしたらできるかを人に伝えられる。
- ☐ イヤモールドを自分で装用することが出来る。



セルフ・アドボカシーチェックリスト

- ☐ 補聴器がうまく機能していないことに気づき、それを大人に伝えることができる。（機器が壊れて動かない時、音が入ったり入らなかったりする時ワイヤレス・システムが入っていない時、など）
- ☐ 補聴器の調子が悪い時、それに気づき、親または周囲の大人に伝えられる。



自己理解

- 自分の「トリセツ」作り
- 難聴理解カルタ
- 詩「ぼくの・わたしの耳」
- 劇「子供ニュース」
- ふれあいコーナー
- 「ようこそ先輩」
成人の難聴の方から話を聞く

トリセツ

の
取扱説明書



トリセツ

《こはを聞きとりにくい》
状況の説明

- ・周りがうるさい時
- ・口の動きが非常に小さい時
- ・ひそひそ話を(耳もと)
- ・口の動きと声の大きさを強調しすぎている時

《分かりやすい状況》

- ・口が見えている時
- ・あまり意識せずに話している時
- ・周りがしずか

トリセツ

《理解してほしい事》

- ・「聞いてなかった」ではなく「聞こえなかった」という考えを持ってほしい
- ・例えば、自分で口の動きや声の小さい事が分かっていて、あくまでも難聴者として見てほしい。
- ・後ろから呼ぶ時は、かたをたたいてほしい。
- ・補聴器や人工内耳を付けていても、完全に聞こえる訳ではない。

トリセツその2

①性格について

普段外にいる時は明るく振舞っています。(偽りの性格)家に帰ると、とたんにしゃべらなくなることがあります。

③突然不機嫌になったことがあります。何時間が経つと元に戻ります。ご了承ください。

③怒ると大っぴらな事になります。(部屋に閉じ込められます)ご了承ください。日程経つと、元に戻る可能性もあります。ご注意ください。

聞こえについて

・Meは補聴器をつけています。それを外すと、聞こえづらくなります。ヨロ/でできるだけ補聴器を付けていないときは、でかい声で話して下さい。(フェールの時など)また、複数の人がそれぞれ違うことを話しかけると、誰が言ったのかわからなくなります。一人ずつ話して下さい。ヨロ/

難聴理解カルタ



ざ

ざつ音が
多いところは

え

えいこはね
ききにくい音が
たくさんあります

の

のいとかくと
周りが見えない
話し始めは
合図をしてね

こ

くばんを
書きながら
話されると
わかりません！

[illegible]

めあて

- 先輩の話を真剣に聞く
- 先輩の話を聞き、質問したいことを考え、質問する
- 先輩の話を自分のことに照らし合わせて聞く

○保護者との連携

- ・ 保護者会
- ・ 保護者面談
- ・ 連絡帳
- ・ 情報保障

○在籍学級との連携

- ・在籍校訪問
- ・授業参観
- ・連絡帳
- ・難聴理解授業
- ・情報保障
- ・教室説明会
- ・校内通級児の保護者と在籍学級担任との連絡会

情報保障及び環境整備

- ワイヤレス補聴システムの活用
(ロジャー 等)
 - ・授業
 - ・全校朝会
 - ・全校集会
 - ・校外学習
 - ・行事 等
- 要約筆記(筆談器 等)
 - ・全校朝会
 - ・校外学習
 - ・水泳指導 等
- 字幕
 - ・入学式、卒業式
 - ・学芸会 等
- 英語
 - ・授業中の情報保障
 - ・予習

全校朝会での情報保障

全校朝会での情報保障

全校朝会での要約筆記

テニスボールを装着



参考文献及びお勧め文献

- ・ きこえとことば研修テキスト（全難言協）
- ・ 聴覚障害児の指導方法（長南浩人著）
- ・ 難聴児の豊かな子育てガイドブック（スーザン・レイン他著）
- ・ よりよいコミュニケーションのための聞こえのワークブック（中川尚志著、南修司郎監修）
- ・ 片耳難聴Q&A（岡野由美著）



参考文献及びお勧め文献

- ・ 聴覚障害児教育の基本と実践（穴戸和成他監修）
- ・ オーディトリリー・バーバル・セラピーの理解と実践（南修司郎編）
- ・ 難聴児バディ・システムハンドブック（国立研究開発法人日本医療研究開発機構） ネットからプリントアウト



参考文献及びお勧め文献

- ・ 耳が聞こえなくなったら（牧野友香子著）
- ・ 「9歳の壁」を超えるために（脇中起余子著）
- ・ 耳は悩んでる（小島博己編）
- ・ 耳がきこえないママときこえるムスメのおはなし（うささ著）



参考文献及びお勧め文献

- ・ 聴覚障害児のためのセルフアドボカシー
(中川尚志監修)



ご清聴、
ありがとうございました。